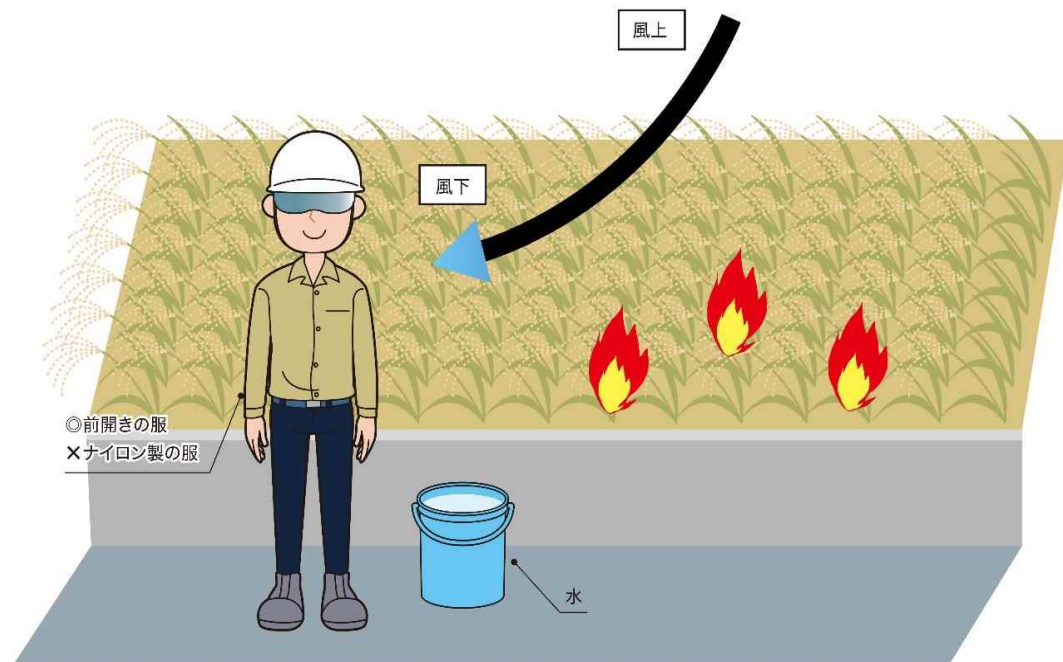


3 様態別にみた事故事例の要因と対策(施設・用具・家畜編) P.108

2) 稲わら焼却中のやけど

- ★風向きを見て、風下側から着火しましょう。
- ★消火用の水を確保しておき、いざというときの準備(消火方法と、非常連絡方法)を確認してから、作業に取り掛かりましょう。
- ★晩秋のワラ焼きでは、ウィンドブレーカーを着て行うことがあります。



野焼き時はよく準備をして

すが、万一、着火したときに脱ぎやすい前開き(前ボタンや前ファスナー)のものを使用しましょう。素材もナイロン製のものは避けるとよいでしょう。ナイロン製では、もし着火したときにナイロンが溶け、素早く脱ぐことがむずかしくなり、やけどの程度が大きくなります。

3 様態別にみた事故事例の要因と対策 (施設・用具・家畜編)

テキストページ

P.109

3) 圃場・道路からの転落

路肩が崩れたり、軟弱圃場で足を取られたりしないような行動をしましょう。手元の道具で負傷することもあります。

予防対策の例

周囲の環境変化を感じ取る工夫をしましょう。



路肩が崩れ水路へ転落



斜面で転び滑り落ちる

靴に取り付け可能なスパイク



3 様態別にみた事故事例の要因と対策(施設・用具・家畜編)

4) 高所からの転落

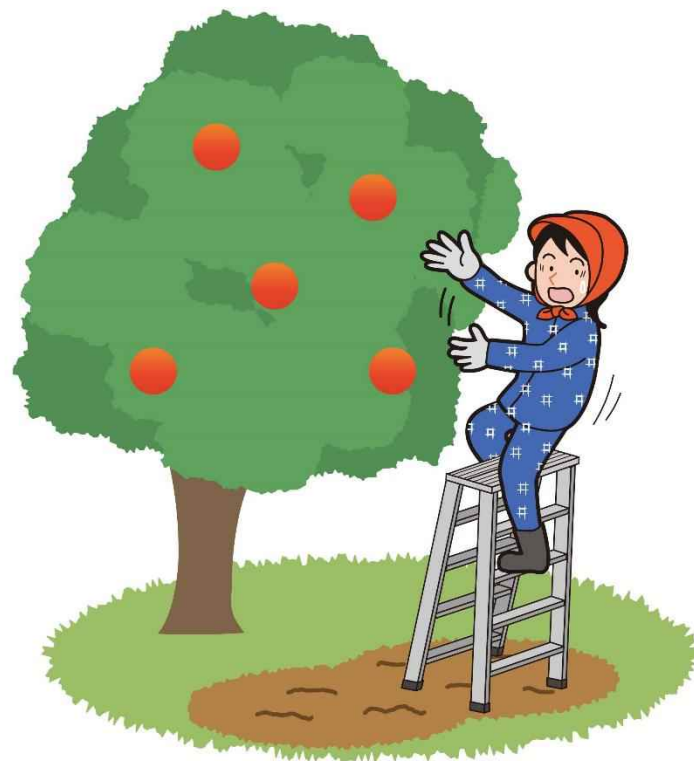
脚立やはしごの足場の安定を確認しましょう。

変形しているものは使えません。

開き止めを必ず使いましょう。

天板に乗ってはいけません。

届きにくいところは、
脚立などを移動して作業
しましょう。



脚立を立てるときはしっかりした足場に

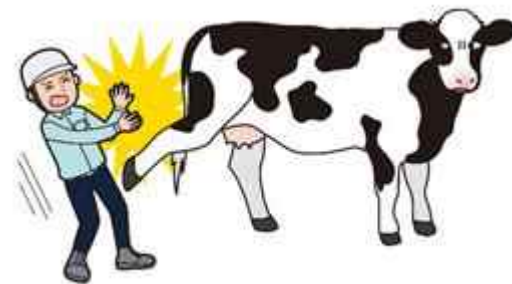
3 様態別に見た事故事例の要因と対策（施設・用具・家畜編）

テキストページ
P.112～P.113

5) 家畜によるもの

事故の発生状況

- 死亡事故件数は全国で年間1～4件だが・・・
- 北海道では家畜による負傷事故は年間700件前後発生
- 中でも牛が8割以上
- 都府県でも同様の事故が発生



事故の概要

- 繋ぎ飼いでは搾乳時、フリーストール／フリーバーンや肉牛肥育では牛の移動時に多発
- 蹴られ、踏まれ、頭突き、柵との間への挟まれ
- 骨折や靱帯断裂等により数ヶ月の入院を要する事例も

3 様態別に見た事故事例の要因と対策（施設・用具・家畜編）

テキストページ
P.112～P.113

5) 家畜によるもの

対策：牛の危険行動の主な要因は「ストレス」

➡ ストレスを与えない飼いが重要

飼養管理方法

- 飼料の質・量
- 牛の扱い方
- ゆとりを持った作業、等

牛舎環境

- 牛床やマスの寸法、飼養密度
- 敷料の適否
- 清潔、換気、温湿度、照度、等

改善

- 乳量・増体量、繁殖成績の向上
- 疾病の減少

収益の向上

安全と収益の向上は両立する！

その上で、危険回避行動を励行、保護具を着用

1 農業機械の安全な使い方

自ら好んで危険な行動をする人はいないが・・・

➡ 「人はミスをする動物」

✗ 「私は事故を起こさない」



「いつか事故に遭うかもしれない」

「だから、備えておこう」

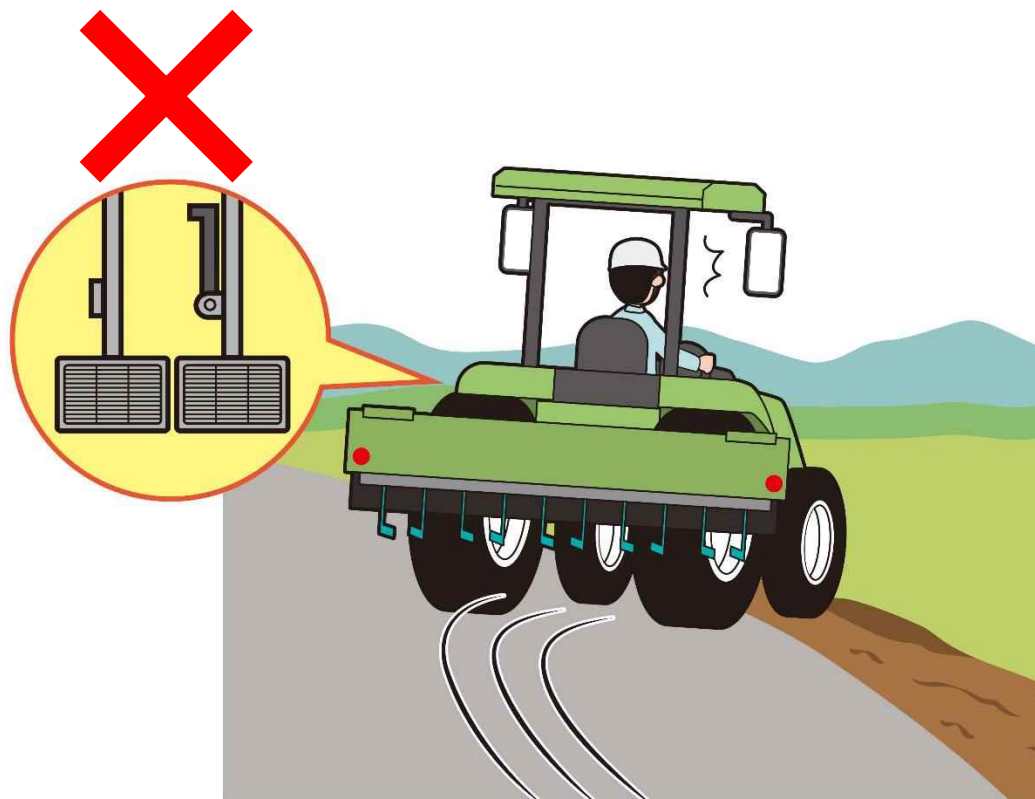
基本

安全装備の意味を理解し、有効に活用する
取扱説明書はいつでも読める場所に保管しておく
見様見真似ではなく、基本操作を正しく学ぶ

1 農業機械の安全な使い方

1) 乗用トラクター

- 安全フレーム・キャブのついたトラクターを使用
- シートベルトを装着
- ほ場から退出するときは、左右ブレーキの連結を確認



路上では必ずブレーキ連結



安全フレームを倒したままの移動は危険

1 農業機械の安全な使い方

2) 歩行用トラクター

- 後退発進時はエンジン回転数を下げ、クラッチはゆっくり
- 堅いほ場での耕うんは、ダッシングを防ぐため、始めは浅く耕し、数回に分けて徐々に深く耕す
- トレーラーをけん引して旋回するときはクラッチ操作ではなくハンドルを操作



後退時に支柱等に挟まれる

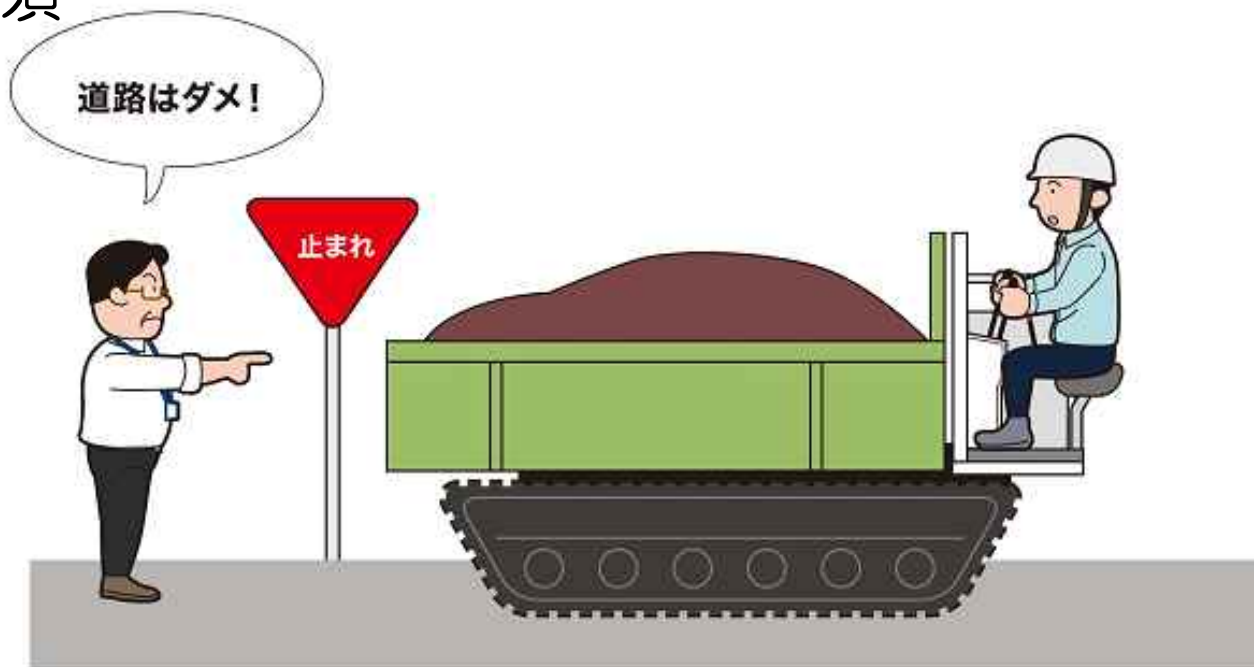


堅い地面でのダッシング

1 農業機械の安全な使い方

3) 農用運搬機

- 乗車しての公道走行はできません
- 歩行型では乗車運転はできません
- 荷台がダンプできるものの点検時は、荷台の落下防止措置が必須

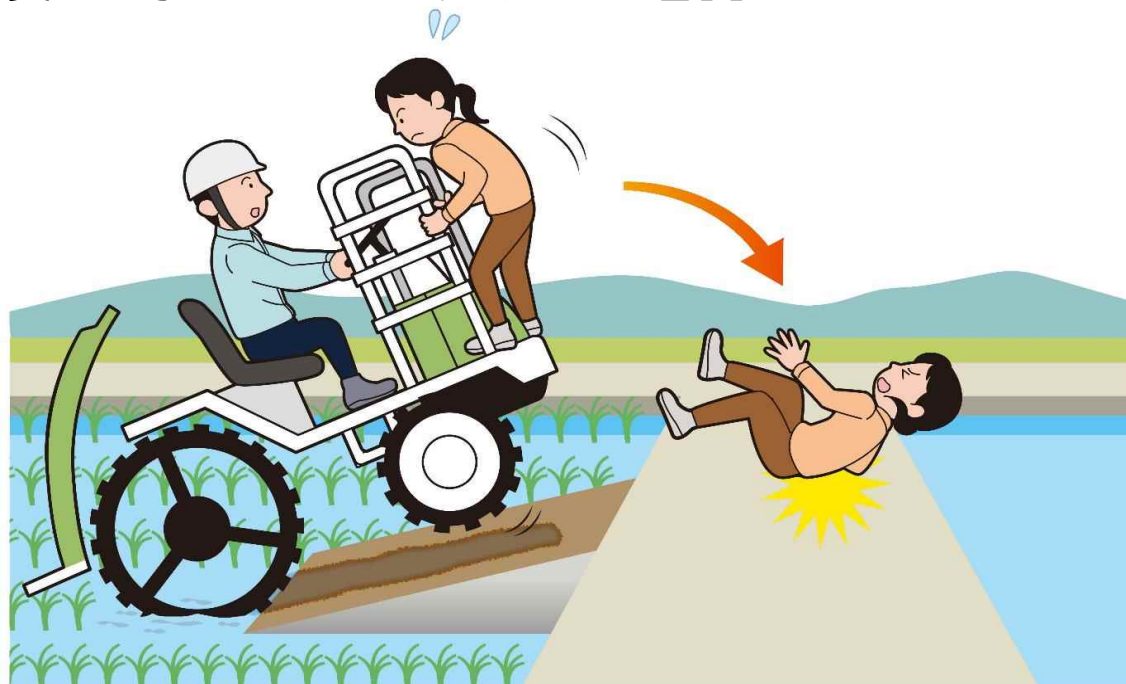


簡易座席タイプは道路上乗車禁止

1 農業機械の安全な使い方

4) 田植機

- 補助作業者を機体前部にしがみつかせての田からの退出は厳禁
- 動いている植え付け爪には触らない
- 苗の受け渡し時は足元の安定を確認



奥様を重しにするのはやめて

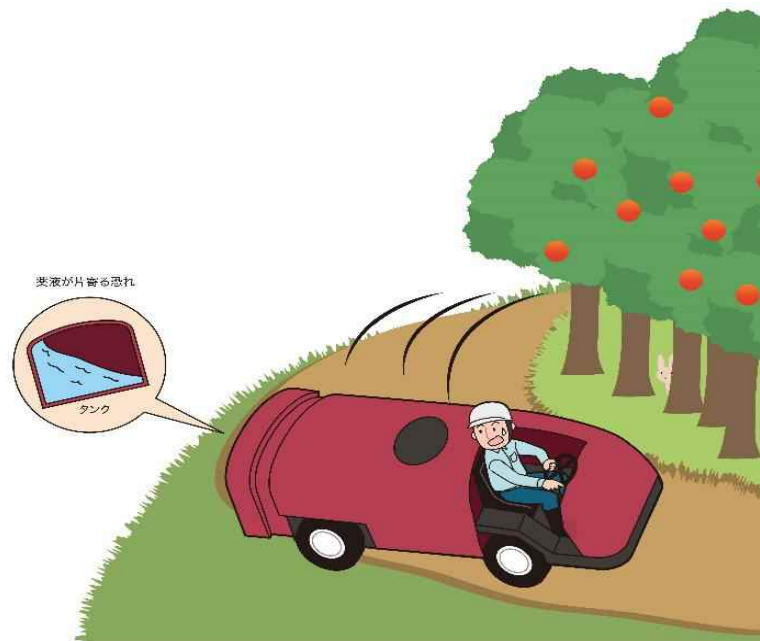
1 農業機械の安全な使い方

5) 防除機

- 農薬に被爆しないような服装と保護具を使用
- 風下から風上に向かって散布
- 速度の出しすぎや急旋回は控える



保護具・服装を整える

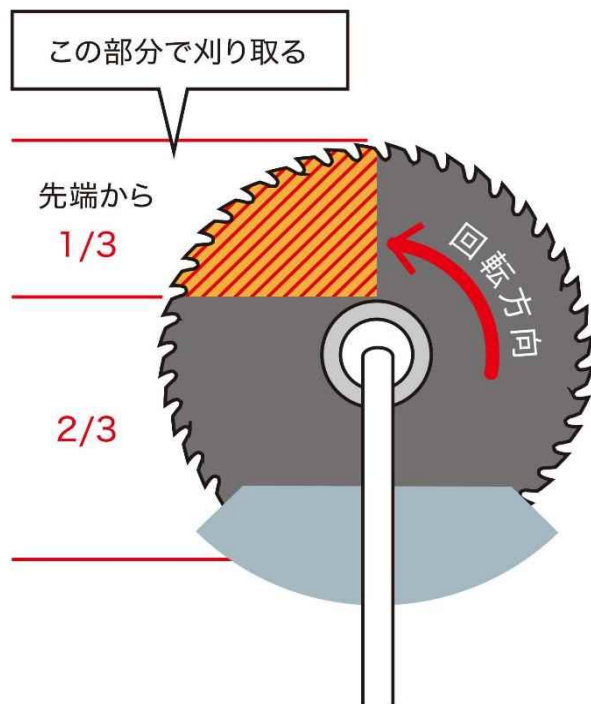


カーブで薬液が片方に寄ることが

1 農業機械の安全な使い方

6) 刈払機

- キックバックや飛散物の飛来、草詰まりを避けるため、正しい方法での作業を励行
- 飛散防護カバーは正しい位置に取り付ける
- ゴーグル・保護面、ヘルメット、安全靴、防振手袋等は必須
- 詰まったときは**必ず**エンジンを停止



固いものに当たるとキックバック